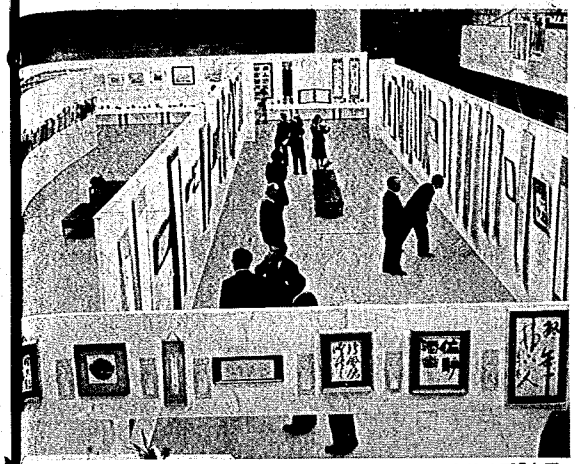
さらに実りある市展に

地についてきた文化活動

市展を振返って

運営委員の評価と助言



盛り上がりをみせた第4回「市展」

第四回を迎えた市展も、三日間の会期を終えて、さる十三日に閉幕しました。観覧者も多く、作品の数も多く、いかにも市展にふさわしい盛り上がりを見せてくれました。

市民の文化活動がいよいよ地につき、根を広げてきたことが感じられ、香り高いまちつくりに、市展が決して小さくない役割りを果たしていることを物語っていると思います。今後とも、より多くの市民が、より多くの優れた作品をもって、一段と実りある市展になるよう、積極的な協力が期待されるわけです。

こんどの市展で、いくつかの反省や希望としては、①開催期間の問題、②作品授賞の問題、③出品数と展示スペースの問題などがあげられます。なお研究が必要かと思います。

また参考までに、運営にあたった委員から、部門別に評価、助言をお願いしました。真に実りある、豊かな市展になることを望む次第です。

（市展運営委員長坂爪精一郎）

日本画部門

出品者が前回より増えたのは喜ばしいことです。

今回も、墨彩の花の絵が作品の半数を占めました。高年齢の婦人の方の努力と熱意に敬意を表します。ただ、あまりにも同じテーマ、額装、大きさなどが同じ作品が多いせいか、個性が薄れて見えます。大きさなどを変えたらどうでしょうか。

静物画は技術が向上しており、とくに色が美しくなってきています。日本画の色は、絵の具自身の美しさを大切にする性格のものです。

また、女性の作品が圧倒的に多いのですが、日本画愛好者の増加とともに、男性らしい作品の出現も期待したいものです。

墨絵などは、もっと自分なりに描いたものが出ても良いと思います。全体的に、まだ伝統的な技法と表現方法から抜けきらないようです。もっと自由に個性を出していかないと、床の間作品から抜け出せないのではないでしょうか。

それはともかくとして、年ごとに作品が増えているので、次回の日本画部門が楽しみです。

（日本画部門運営委員）

洋画部門

新人といったらよいでしょうか、「油絵教室」で学んだ人たちの絵が、数の上では圧倒的でした。しかも、作品の一枚一枚に〝一生懸命さ〟がにじみ出ていて、一般鑑賞者にとっても身近かで親しみ易く、まことに好感のもてるものです。自分も習ってみたいとか、描いてみたいという意欲もわかせます。

全体を通して感じることは、基本的なもの――特にデッサン力の不足と絵の具の使い方の不なれさが目につきます。

また、出品制作を通じて、一枚の絵を仕上げることの苦労を知ったことでしょう。楽しさなどを通り越して、苦心惨胆、どうしようもなかった、というようなる作品も何点か見受けられましたが、それがものを創り出すための苦心と喜びなのです。他人の作品と比べ、自分の絵の方向を模索し、発見していただきたいと思います。

来年は第五回です。前回（一、二、三回）までの出品者で今年は出品しなかった人や、今は描くことを中断している先輩のみなさんも一緒になって、市展を盛り上げようではありませんか。

（洋画部門運営委員）

彫塑部門

市展もすでに四回目ですが、〝彫塑の部〟だけはいつも一人きりで、寂しい限りです。

お買物、ご用命は市内で

いけばな材料
慶弔用・盛花・花束
小林生花店
新津市新町1丁目　TEL (2) 1080・5707

カメラクレジット
駐車場完備
(株) カメラのサカツメ
新津市本町4丁目　TEL 2−0045

もっと、だれもが関心を持ち、気軽に出品してもらいたいと思います。もっとも、市展は創作品に限るわけですから、単に木の根っ子や石を、形がおもしろいからといっていくら磨いても、彫刻にはなりません。また、どんなに達者な技をもっていても、床の間の置物をまねて彫ってみても、自分の作品にはなりません。でも、創作は、そんなに難しいものでしょうか。

昔、円空という坊さんが千体の仏像を作ることに願をかけ、木片を見つけ次第、鉈のような簡単な道具でずばずば刻んだといいます。最近、その作品が各地で見つかっていますが、彫刻不毛といわれた江戸時代にも、こんなに斬新で魅力的な作家がいたことにびっくりさせられます。

だれにも、子どもの頃、粘土をこねたり、木片をけずった経験はあるはずです。上手でなくても、自己流でもいいと思います。円空のような、無邪気な作品がもっとそろったら、どんなに素晴らしいことかと思います。

（彫塑部門運営委員）

回を重ねるごとに出品者が増えている工芸部門

工芸部門

工芸部門の出品者数は、市展の回を重ねるごとに多くなってきています。大変喜ばしいことです。市展が本当に市民のものとして楽しめるのは、だれでもが自由に参加できるところにあると思います。そんな意味からも、今回の陶芸の出品は楽しいものの一つでした。何よりも出品作品は、花器とか菓子器、茶器など身近かな生活用品が多く、つい手を触れてみたくなるような魅力がありました。

「やきもの教室」などの参加者の層が厚くなり、技量が向上することによって、今後はさらにこの部門が充実してくるでしょう。将来が楽しみです。しかし、専門的には一、二の作品を除いては、まだまだ初心者の域を脱していません。

木工品などは、実に細かな工程を経た労作が出品されました。また、鋳金の部門には、高度な作品が出品されましたが、出品者が少ないのが惜しまれます。

この工芸部門は範囲が広いため、出品作品の質の問題とあわせて、たとえば〝楽しい市展〟を目ざすなど、今後、運営面も検討していかなければならないと思います。

（工芸部門運営委員）

書道部門

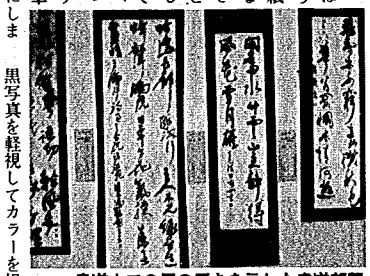
第一回から第四回までの書道部門の出品者をみてみると、毎回、相当多数の出入りがあります。しかし、二点出品者が減る傾向の中で、総数は年ねん増加しています。その意味では、書道人口の厚さを感じさせる今回の市展でした。

展示スペースもいよいよ窮屈になってきたので、二点出品者はなるべく一点にしぼって、大作に取り組んでほしい、という声もあります。

内容の方は、まだまだ創意に乏しいきらいはありますが、行草作品を中心に、隷、楷、かな、漢字かなまじりと多様であるし、いわゆる習字的なものから造形的な作品へと脱皮しつつあります。中には、毎回創意を工夫し、新鮮な作品を発表する楽しみなる人も何人かいます。

次回への注文としては次のようなものがあげられます。第一には、色紙程度の大きさでは頼りないので、半切以上の大きさに切りかえてほしいということです。第二としては、書き流しで仮巻では貧弱すぎます。第三に、作者は書くことばをしっかり読んでほしいということです。来年は、自筆の釈文を掲示することにしました。第四は、新作を発表するのが建前であるのに、旧作を持ち込む人があることです。これは避けてください。

（書道部門運営委員）



書道人口の層の厚さを示した書道部門

写真部門

写真部門の力作を拝見しました。ほかの部門は年ねん盛んになり、出品点数も多くなっていますが、写真部門だけは出品が減り、振るわなかったように思います。

カメラ人口は年ねん増加し、どこの家庭でも、カメラの一台や二台はあると思います。カメラ機構を十分に知り、思う存分に駆使して、秀作を市展に発表してもらいたいと思います。

最近は、カラー写真が多く出品されるようになりました。それは結構なことですが、白黒写真を軽視してカラーを撮っても、単なる色付き写真に過ぎません。白黒で土台をしっかり築いてから、カラー写真に進んだ方がいいと思います。また、私たちは審査員や選者ではありませんから、作品の善し悪しは述べませんが、ピントの悪い作品は、だれが見てもわかります。現在のレンズに、そんな悪いものはないはずです。三五㎜判から全紙に伸す位は常識でしょう。

長年、白黒を勉強された方には頭が下がりますが、中に、パネル仕上げが悪く、せっかくの写真が台なしになったものがありました。日本画や洋画を見習って、入念に美しく仕上げたいものです。

なお、白黒写真の撮り方から現像、引伸しまで、本気に勉強してみたい方は、委員までご連絡ください。

（写真部門運営委員）

お買物、ご用命は市内で

住まいづくりの
設計から施工まで
誠意と技術で奉仕する
株式会社 木下組　☎2 4511
一級建築士事務所
善道町1−3−14
一般住宅、店舗計画設計・土木・舗装

カメラ8ミリは3回〜20回払い
気軽なカメラクレジットを
ご利用下さい
株 コダカメラ店
新津市本町二丁目　☎(2) 0583